
特集 メタボリックシンドロームの克服に向けて

【巻頭言】

松本俊夫 (徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部生体情報内科学分野)

片岡善彦 (徳島県医師会生涯教育委員会)

わが国では食生活の欧米化に伴い心血管系障害による死亡が増加を続けている。この心血管障害の原因となる動脈硬化性疾患の危険因子として問題となるのが、糖尿病、高血圧、高脂血症などの生活習慣病である。しかも、これらの病態が二つ以上重複して見られる例に動脈硬化症が多く発症する。そしてその背景に肥満とりわけ内臓肥満があり、内臓脂肪の蓄積に伴いこれらの病態が重複して発症することが明らかとなった。これら動脈硬化症の危険因子が重複する病態をメタボリックシンドロームと呼び、肥満に伴うインスリン抵抗性はその発症の最大の原因となっていることも明らかにされた。

徳島県は糖尿病死亡率全国第1位を12年間に亘り続け

るという不名誉な記録を更新中である。また男女共に肥満度が全国の上位を占めており、メタボリックシンドロームの病態を呈する例の比率も全国の上位を占めるものと思われる。本特集では、メタボリックシンドロームの基盤となる肥満の病態や評価法、メタボリックシンドロームに伴い認められる糖尿病、高血圧、高脂血症の病態、およびその予防・治療の基本となる食事管理の実際について、各々の診療や研究の中心となって活躍中の先生方にご執筆頂いた。

本特集が読者のメタボリックシンドロームへの理解を深め、その予防に向けた生活習慣の改善へと繋がる機会となったものと期待している。